



東選手 池田選手全国へ 「成長を示せた」

室蘭海星高



インターハイに続き全国出場を決めた池田選手

全日本ジュニアテニス

高校年代最高峰のテニス大会「ユニクロ全日本ジュニア選手権2022」の予選を兼ねた北海道ジュニア選手権大会(札幌市)で、室蘭・海星学院高の東佳凜選手が女子ダブルスで優勝、池田蓮選手が男子シングルスで4強入りを果たし、見事全国切符を手にした。3年生の2人にとって集大成の大会となり、気持ちを思い切りぶつけるつもりだ。

(野田篤志)

●女子の意地

全日本ジュニア選手権は、プロへの登竜門となる大会。高校の部活に所属せず、スクールで腕を磨く実力者たちが道大会にも多く出場した。

「小学校からテニスを始め、今までが一番うれしい」。札幌の選手とペアを組み、女子ダブルスで優勝した東選手は、日焼けした顔をほころぼす。

最大のヤマ場となったのは準決勝。ゲームカウント1-5の劣勢だったが、身

長170センチの長い手足を生かしたボレーが決まり、7-5と巻き返した。

もつ二つ、優勝の鍵となったのが「気持ち」だ。高校入学後、コロナ禍で主要大会は中止。2年の時は男子が総体と選抜で全国出場を果たし「男子あつての海星テニス部だった」。雪辱を期したラストシーズンは1月に左手首を手術したほか、高体連前に左足甲を骨折。満足した結果を残せなかった。それだけに「最後に海星女子の意地を示すことができた」と胸を張る。手術した左手首にはブレ

●雪辱果たす

シングルスで全国に出場する池田選手。「昨年は先輩とペアを組んだダブルスでの出場だったので、成長を示せて良かった」とほっとした表情を見せる。

雪辱を果たした。代表権を懸けた準々決勝、相手は高体連で敗れ、北海道王者となった帯広北の宿敵。試合前、指導を仰ぐ菊地竜平総監督から「全国を決めてこい」と言われると、大胆な攻撃を繰り出し快勝した。

無名の選手だった。「中学時代、全道大会で勝ったことはなかった」が、昨年の高体連は2年生ながら準優勝。今年もインターハイに出場し、着実に成長を示してきた。

海星学院で実力を付けた2人。集大成の舞台に向け、最終調整に余念がない。「応援してくれる地域の方にはもちろん、菊地総監督の結果で恩返しをしたい」と意気込んだ。大会は28日、大阪府で開かれる。



サーブ練習に汗

道大会女子ダブルスで優勝した東選手